

企業名：株式会社 FUJI

レポート名：アニュアルレポート 2021年3月期（財務編）（事業編）

1. この会社が目指す姿が理解できるか

「FUJI グループは 時代の一步先を見据え、常に新しい価値を創造し、お客様に驚きと感動を与えられる製品・サービスを提供することで、世界中の「もっと」に応えます。」

これはこの会社のコーポレートスローガンの一部であるが、このように時代に合わせた新しい価値の創造をしてゆく旨はレポート内で何度も言及されていた。事実当社は最新技術の導入や医療などの新しい分野の開拓も積極的に行っていることが記述されており、会社としてこういった理念は具現化されているように思う。実際、現代社会は目まぐるしく変化していくため、このような理念はますます重要になる。よってこの理念を追求することで、将来的なこの会社の目指す姿は見えてくるのではないかと思った。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

競争優位性を生み出すためには、他社製品に対して独自性、差異性や優位性を持っていることが第一に必要である。この会社の競争優位性について、ロボットソリューション、特に電子部品実装ロボットにおいて本年度は目標であるシェア30%を下回ったものの、シェアはトップクラスであり、面積生産量が業界トップの製品など高い技術力のもと差異性を生み出す製品もあるので、競争優位性はある程度理解できる。

一方、マシンツール事業については減収が続いており、競争優位性が発揮されているという印象は受けなかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

近年の IT 市場はますます拡大し、主力技術である電子部品実装のロボットといった当社の技術の需要が大きくなっていくことは理解ができる。今後はさらに技術が高度化して変化し続けていくので、それについていくためにもイノベーションし続けることが必要であり、当社のコーポレートメッセージ「innovative spirit」をもち続けることが持続性に重要な役割を果たすと思う。また、年々研究開発費が上昇傾向にあることはイノベーションの重要性を理解しているためであり、そこには長期的な視点での競争優位性の持続性への希望が持てると思われる。

また、当社は売り上げの90%が海外のものであるため、世界的な景気変動の影響を受けやすいことがわかる。当社の海外市場の売上はコロナ禍で減少した地域もあり、それがコロナ禍の後に回復するかということまでは示されておらず、また今日のロシアのウクライナ侵攻についての記述はまだないので、今後の安定した持続性を資料から予測することはできなかった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

入社一年目の社員が入塾する「創開塾」には惹かれるものがあった。仕事の前の段階でイノベーションというものを体感することができるということは、今後開発に直接的に携わる以外の仕事にとっても貴重な経験となるし、生みの苦しみを理解することによって、よりリスペクトが生まれたり、人の立場に立って考えたりすることができるようになり、人間としても成長できるのではないかと思った。

また、有給取得率が78%と高い（令和二年度 厚生労働省「年次有給休暇の取得状況について」において、製造業の有給取得率平均 61.6%）。これは業種によって差はあるかもしれないが、有給のとりやすい職場で安心して働けそうだという印象を持つ。他にも健康経営優良法人として経済産業省に認定されていることなどは、職場環境が良好であるという印象を与えた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

アニュアルレポート全体はシンプルで、様々にデザインなどが工夫されて全体的に長くなってしまっているものよりかえって読みやすいと思った。しかし、アニュアルレポートを財務編、事業編と二つに分けることに関しては、二つで重複しているような内容や、財務編に事業についての言及があるなど、分けることに大きな必要性を感じなかった。二つ一緒のレポートにまとめてもいいのではないかと思った。

出典 株式会社 FUJI アニュアルレポート 2021（財務編）（事業編）

令和二年度 厚生労働省「年次有給休暇の取得状況について」